思いやりのある生徒
確かな学力をもつ生徒
心身ともにたくましい生徒

とうだい

自信と誇りもて歩め

平戸市立 生月中学校

思いを紡いだ「生月文化の日」

23日、台風接近の知らせもある中、時折強まる風雨にも負けず、「生月文化の日」が開催されました。

３年生が披露した合唱曲『糸』には、

縦の糸はあなた
横の糸は私
織りなす布は
いつか誰かを
暖めうるかも
しれない

という歌詞があります。中島みゆきさんが発表してもう30年以上経つ曲ですが、人と人との縁の不思議さや支え合って生きることをテーマにした曲は、心を打つ名曲として、人々に親しまれています。今年のテーマである「One for All，All for One」にも通ずるところがあるようにも感じます。それは、生徒のみなさん一人一人の思いや表現を糸のように紡いで、この「生月文化の日」が成り立っていたからです。

物語仕立ての生徒会のオープニングに始まり、各学年が趣向を凝らした発表を行いました。

１年生は、校舎建て替えのため取り壊される現在の校舎や、学校の歴史をたどる情報番組風の発表でした。古い校歌を楽譜をもとに歌うところが印象的でした。少ない人数ながら、それぞれの出番や役割のある、全員で作り上げた発表でした。

２年生は、７月に行った職場体験学習をもとに、各事業所での体験を寸劇を交えて発表しました。事業所を巡る展開に工夫があり、ドローンも飛び出す演出がありました。生月愛に満ちたやりとりもありながら、働くことの意義をしっかりと捉えた内容でした。

３年生は、前半は修学旅行のエピソードを楽しく披露する内容で、演技の巧みさもあり、テンポ良く笑いを交えながら物語は進みました。後半は一転して、大刀洗平和記念館の訪問から、「特攻」で命を落とした若者が心の叫びを吐露するシリアスな展開となり、明暗の振れ幅もあって、会場の誰もが心を揺さぶられました。

ＰＴＡによるサプライズ合唱が披露され、温かい雰囲気に包まれた会場で、後半の合唱発表の幕が上がりました。ドラマチックな『正解』の全校合唱で始まり、１年生『大切なもの』、２年生『旅立ちの時』、そして、３年生の『糸』へと続きます。それぞれの学年が、歌声を紡ぎ、ハーモニーが形づくられ、体育館中に響き渡りました。

開会式で、ＡＩの方が人間よりうまくできることもあるのに、なぜ人は芸術や文化を生み出そうとするのかという問いに、私は文化を創造する人の営みに価値があるからだと答えました。会場を彩った展示物を含め、当日まで、それぞれの作品や発表や歌声に手を入れながら、自分自身や仲間と紡ぎ上げていく日々があったはずです。当日の体育館にあふれる文化・芸術は、その過程が垣間見れるからこそ感動を呼ぶものになったのではないでしょうか。また、実行委員や学級の仲間の協力、先生方や保護者のみなさん方の思いが合わさって文化の日があったのだとも思います。紡いだものを未来へつないでいきましょう。